

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町七三-15

TEL 027-2555-3434

FAX 027-2555-3435

http://www.neues-asahi.jp

久しぶりに榛名方面に出かけて道の駅「くらぶち小栗の里」に立ち寄りました。店の入口に「マンサクの花」を見かけました。

「まず咲く花」「真つ先」という語源もあるとか・・・少し不思議な形をしています。花言葉は「ひらめき」「神秘」「幸福の再来」など。少し夢広がる気がして数年前から自宅で楽しんでます。

社会の慌ただしい変化の中にあつて自然は優しく豊かな風を運んでくれます。また、突然の気候変動や災害をもたらします。

生きているということは、その環境にあつて真正面から受け入れていかなければならない強さと優しさをもたなければならないようです。

ギャラリーや出版の仕事を始め四十一年になります。

多くの作家と知り合い、数多くの催事や本づくりに携わってきました。

また、作家の作品を通して来廊される人々に出会ってきました。

子供の頃から近所の豆腐屋、パン屋、幼なじみの家を自宅のように出入りして野原を駆けずりまわり、川でオタマジャクシやメダカを手拭いですくいあげ遊んでいた頃の環境が自分の原風景として刷り込まれています。だれにも子供時代の原風景は存在しています。

作品と向き合う時、作家と向き合う時、その人の原風景が、言葉に、行動に、そして作品に見え隠れしてきます。その時の感動と喜びは、自分にとつての至福の時です。感じとれる感性を養うことも重要ですが、意外と原風景にその感性は存在しているようです。

小林裕児氏の作品との出会いはずいぶん前になります。

数年前から年に一度お会いする機会を得て、作家との出会い以前に多くの作品を拝見してきました。

以前、東京で開催された個展の図録を拝見していると小林裕児氏のアトリエから見える風景の下に「子供時代に過ごした武蔵野の野火止め用水沿いに続く森から始まった僕の森の記憶は、ずっとあとになって住んだ秋川沿いの森を経て今に続き、くねくねとした踏み分け路を通って目の前の画まで延々とつながっていたのだと思った。」という文章がありました。

静寂な夜に聞こえてくる鳥のさえずり、馬のひずめ音、月明かりに照らされる田んぼや畑の美しさ。朝の光が射しはじめる。そして生命の息づかい。そこで繰り広げられる人々のいとなみ。どこからともなく聴こえてくるアコースティックの音色。自然の中にも希望と夢と幸せを感じさせてくれます。

(武藤)

ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

小林裕児と YUJI KOBAYASHI

合歓の庭

〈企画〉

会期 三月二十日(土)～二十八日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

初めてノイエス朝日を訪問した時、ある心地よさを感じました。迎えてくれるスタッフの方の温かさか、美しい木目からなる壁面が心を和らげるのか、お茶を楽しむ人々の心持ちか、窓際に並ぶたくさんの本たちか、そのすべてがかもしだす奥の深い雰囲気なのだと思います。こんな素敵な空間で私の個展が開催されることを心よりうれしく思っています。

今回は大作「幻視―合歓の庭」を中心にこの二〇二〇年(二〇二一年)にかけて製作した油彩画、古裂の上に描いたドローイング、作りためてきた版画などを展示します。

どれも森の中の一軒家に住む私の生活から発想を得ています。隣家が無く夜ともなればあたり一面真っ暗暮らしている街中とはだいぶ違います。昨夜も外が騒がしいとガラス戸越しに覗いてみると、二匹のタヌキがネコの餌にかぶりついているではありませんか。あわてて追い払おうと木片を投げましたが全く動じる気配がありません。それどころかどんどん近寄ってきます。見ればふさふさと毛艶も良くクリクリした目は私をからかっているかのようです。アトリエの裏山は昔からタヌキ山と言われてきました。二十数年来こんな生活ですから、私の絵の大半は異界からくる野生動物にたぶらかされた幻想から出来ているといってもいいくらいです。ほとんど訪れる人のいない里山に住んで、人間社会とは別の異界があることを強く感じます。それはすべての事柄に関する二面性やパラレルワールドの存在を意識した世界を描きたい私の欲求と相まって創作の原点となっています。

ノイエス朝日の空間に私の作品が展示され、訪れた方々の心とどんな会話が交わされるのかとても楽しみます。

小林裕児

ギャラリーの一隅から

先日「ふる本市 ミニ」が終わり、ノイエス朝日の国道沿いに美術、哲学、歴史、社会科学、自然科学、言語学などの専門書や文学関係など四百数十冊を並べました。また、ノイエス入口の右書棚には選書、新書、文庫を並べてあります。来廊の折には是非手に取ってみてください。新しい本との出会いがあります。

受付横には、「ご自由にお持ち帰りください」コーナーもご用意してあります。

早春の夜に

眠れない夜にBS放送を見ると、興味深く面白い番組が時々放映されています。

先日は、NHKのBS1で「イスラムに愛された知の巨人 井筒俊彦」三十カ国もの言葉を話し、コーランを翻訳しイスラム世界から敬愛された人物。言語哲学として多様性とは者との共生という現代社会に最も必要とされている考え方であり、学ぶべきことが多くありました。

「エラノス会議」スイス湖畔で宗教学、神話学、深層心理学、神秘主義など東西の研究者が二時間の講義の後に円卓を囲んで食事を共にし、数日を過ごすという、そんな姿も映しだされました。難解な言葉を理解できる能力があれば・・・。たまたま手元にあつた河出書房新社の「道の手帖」シリーズ「井筒俊彦」生誕一〇〇年を読み始めました。

数年、数十年とあらゆる本を読んだところでわかるはずはないと思いつつ少しでも心が「ドキドキ」「ワクワク」する心地よさが感じられればと一頁一頁と言葉を追っています。

また、「まいにち養老先生、ときどき まる」では、鎌倉での養老孟司と猫のまるの日常が静かな時の流れる中でくりひろげられていました。猫のまるは亡くなってしまい、いつもいる場所に「まる」がいない淋しさが伝わってきました。本や映像は「知」の貴重な財産です。春らしくなったり少し冷えたり、皆様お元気で・・・。